

# 先輩に 続け

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
神経・情報医学部門 病態情報医学講座  
薬理学分野(医学系) 特任助教  
石澤 有紀 (いしざわ ゆき)



4歳の娘、2か月の息子と

## 「基礎」という選択、 仕事と子育て

こんにちは。大学院ヘルスバイオサイエンス研究部薬理学分野特任助教の石澤有紀です。主に、糖尿病に合併する血管障害や腎障害の発症メカニズムの解明・治療薬の開発を目指して研究を行っています。

### 基礎医学の分野で研究者の道へ

医学科卒業生にはいわゆる「就活」というイベントはありません。医師免許を取得した人のほとんどが初期臨床研修を受けた後に、各

専門科に進み更に臨床のトレーニングを積みみます。企業に就職したり、公務員になったり、予備校の先生になったり；他にも医師の就職先はあるにはありますが、ほとんどに極々僅かな人のみが「臨床医」以外の道を進みます。そんなマイナーな進路の中でも一番メジャーなのが基礎医学の道です。私が基礎を選ぶに至った理由は一口には言えませんが、中でも大きな要因は①卒業時すでに博士課程(MD-PhDコース※)を修了していた②院生時代、薬理で尊敬する先生方に出会っていた③子育てをしながら初期研修に臨んだことでしょうか。子育てと両立させながら、それまでのキャリアを

### 略歴 Profile

1980年5月	香川県丸亀市生まれ
2003年	徳島大学大学院 博士課程MD-PhDコース進学
2006年	徳島大学医学部 医学科(5年次)再入学
2008年	徳島大学医学部医学科卒業
2009年~2011年	徳島大学病院・ 徳島市民病院にて 医師卒後臨床研修
2011年4月より	現職

生かし自分の能力を發揮できるところに、と考えた結果、自然と基礎研究に身を投じることとなりました。現在のポストに就いて1年半、実際には院生として実験していたことと、スタッフとして研究を行うことは全くもって勝手がない、順調な滑り出しというわけにはいきません。悩み悩み、未だ手探り状態が続いています。それでも、上司である玉置俊晃教授はじめ多くの先生方のサポートによって、2013年4月からアメリカへの研究留学が決まりました。このように早いうちに留学の機会に恵まれるのも、基礎医学を選択するメリットではないでしょうか。

### 子育てとの両立

実は私、これを執筆している2012年10月現在は第2子の育児休業中です。研究も中断：：のはずですが、徳島大学AWAサポートセンターの支援事業により、支援員の方が私に代わって研究を続けてくれています。このように女性研究者をとりまく環境は日々快適になってきています。臨床と違って夜間の急な呼び出しはありませんし、自分のペースで自分の計画に沿って仕事ができますので、家庭と子育てと両立させたい女性にとって基礎研究はお薦めです。

### 助走が大事

女性も男性も歳を重ねるにつれて、「興味の赴くまま好きなことだけ」って訳にはいかなくなりません。自分磨きに没頭する暇もありません。自分以上に大切なものが増えてきちゃうんですね。そこで私自身の反省も込めて、『助走が大事』！身軽なうちに、多くのこ

とを経験して力をつけ、思いつきりスピードを上げておくと、より高く遠くへジャンプできます。もしペースダウンしなくちゃいけないときにでも、速く、長く、余韻で走り続けることができるんじゃないかと。先輩の皆さん、充実した学生生活を送ってくださいね！

(※)徳島大学のMD-PhDコースとは  
徳島大学医学部医学科を4年次修了時点で一度退学し、大学院医科学教育部(博士課程)へ入学する。3または4年の研究期間を経て大学院を修了後は医学部5年次に再入学し、2年間を経て医学部を卒業する。(医師国家試験は6年次で受験)



薬理学教室集合写真(本人前列右端)